

プロに学べ！魅せるサイエンスイラスト！

How to prepare attractive and faithful scientific illustrations ?

日時：12月8日(水) 18:15～19:45

会場：第20会場(国際展示場2号館3階3A)

オーガナイザー：

小林 麻己人(筑波大学TARAセンター)

三輪 佳宏(筑波大学 基礎医学系)

生命科学を言葉だけで説明することは難しく、サイエンスイラストの活用が効果的です。“わかりやすく”伝える技術は、科学の素晴らしさを一般市民に伝えるのに役立つだけでなく、専門化・高度化が進んだ研究者間のコミュニケーションにも必要です。論文や総説・発表や教育用スライド・各種申請書・案内などに、わかりやすくインパクトのあるポンチ絵やモデル図がつくと、読者や聴衆の興味と理解がぐっと深まります。しかし、魅力的でかつ内容を正確に伝えるサイエンスイラストは簡単には描けません。

本フォーラムは、昨年度の生化学会大会・市民フォーラム「磨いて活かせ！サイエンスイラスト」の続編です。予想以上の反響のため、今年度も企画しました。研究者・イラストレーター・雑誌編集部の方々に、どんなイラストが魅力的で効果的かを伺いし、さらに、具体的なテクニックやアイディアも紹介していただきます。プロの技を学びながら交流を深め、“魅せる”サイエンスイラストを目指しませんか？

プログラム

18:15 はじめに

18:17 サイエンスイラストレーション作成のための
デザインルールとは？
田中 佐代子

18:38 ポンチ絵、Figureの重要性を軽く考えていませんか？
ーデザイナーさんが作ったポンチ絵は何かが違う！
渡辺 正夫

19:59 伝えたい情報が「伝わる」ために
ーコミュニケーションにおける編集・デザインの役割ー
八十島 博明

19:20 Nature Publishing guidelines and procedures
for illustrations
Tom Wilson

19:41 総合討論

共催：筑波大学TARAセンター若手挑戦型プロジェクト 三輪プロジェクト
筑波大学研究戦略プロジェクト「サイエンスビジュアル化の学際的・国際的交流基盤の構築」
科学研究費補助金 基盤(C)：「科学者のためのサイエンスイラストレーション作成ガイド」



小林 麻己人
Makoro Kobayashi



三輪佳宏
Yoshihiro Miwa



田中 佐代子 Sayoko Tanaka
筑波大学大学院人間総合科学研究科芸術専攻
准教授

1989年 筑波大学芸術専門学群卒業。1991年筑波大学大学院修士課程芸術研究科修了。1993年から企業でグラフィックデザイナーとして勤務。2002年から筑波大学でビジュアルデザインの研究・教育に携わる。現在は「科学者のためのサイエンスイラストレーション作成ガイド」について研究を行い、日本サイエンスビジュアル化研究会の代表としても活動している。



渡辺正夫 Masako Watanabe
東北大学大学院生命科学研究科植物生殖遺伝分野
教授

1965年愛媛県今治市生まれ。1988年東北大学農学部卒。1994年博士(農学)取得。2005年より東北大学大学院生命科学研究科教授(現職)。専門は植物生殖遺伝学。Nature, Scienceなどに論文を100報以上発表。こうした研究活動と平行して、150件以上の出前講義を行い、東北大学「科学者の卵 養成講座」実行委員会・運営委員を担当。SSH(Super Science High School)運営指導委員会委員、学校評議員等も併任。



八十島 博明 Hiroaki Yasojima
GRiD CO.,LTD 代表
日経サイエンス誌、アートディレクター

1962年 東京生まれ
桑沢デザイン研究所卒業
森啓デザイン研究室で科学雑誌、PR誌等を担当後、92年GRiD設立
桑沢デザイン研究所非常勤講師



トム・ウィルソン Tom Wilson
NPGネイチャーアジア・パシフィック Nature
Photonics編集部、アートエディター

ニュージーランド・オークランドの近くの小さな島で生まれ育つ。2000年、CGデザイン科を卒業後、ロンドンに移り、2002年からNature本社でフリーランサーとして仕事を始め、翌年常勤になった。その間「Nature Reviews Genetics」と「Nature Reviews Microbiology」のプロダクションエディターとして活動した。2007年からNature東京オフィスのNature Photonics編集部本部にアートエディターとして参画し、現在に至る。関西出身の妻を持つ。